

松代文化財ボランティアの会

代表者	荻原 幸子
所在地	〒381-1231 長野市松代町松代197-1
設立年月日	1999年
URL	http://www.grn.janis.or.jp/~ma-vol/

【設立趣旨】

松代文化財ボランティアの会は、「真田宝物館」をはじめとする松代地区を中心とした地域の、有形および無形の文化財を自ら調査研究すると共に、地域住民や訪れる人に紹介する活動によって、地域文化の振興に寄与することを目的として結成されました。

当初、周辺地域の豊富な文化財は人材や予算、興味関心の薄さから埋もれかけていました。そこで、真田宝物館が中心となり、地域の文化財の調査主体であり、かつ地域の文化財目当てで訪れる観光客のガイドとしての知識を持つ、市民ボランティアの育成を開始し、後に本会の設立につながりました。

【沿革】

1997年(平成9年)、真田宝物館が文化庁「文化財愛護活動推進方策研究」事業による研究委嘱を受け、市民との協働を目指す「ボランティア養成講座」をスタートさせました。97名が受講する等、ボランティア養成講座が軌道に乗る中、1999年(平成11年)に「松代文化財ボランティアの会」が発足しました。同会は2001年(平成13年)から本格的に活動を開始し、現在登録会員数は約100名にも及んでいます。真田宝物館の文化財ガイド等の観光客対応のほか、同館等に所蔵されている資料や地区の文化的な事象の調査研究、近年は文化財に関連するワークショップの企画準備等にも携わっています。

また、現在では真田宝物館の保護下を離れ、自らの事務所を借りた独立採算での運営を行っており、文化財保護活動及び組織運営の更なる展開を目指しています。



真田宝物館
(松代文化財ボランティアの会提供)

【活動目的】

当会は、1999年(平成11年)に「真田宝物館」をはじめとする松代町および周辺の『歴史的な文化財』を広く紹介して、後世に伝えることを目的に発足しました。当初の活動は、真田宝物館をはじめとする諸施設の案内・説明と、地域内の文化財の調査・資料の作成でしたが、活動の形態・範囲・内容も逐次多様化し、地域の諸団体と連携しながら「松代の魅力」を知ってもらうために精力的に活動に取り組んでいます。

【活動内容】

●湯茶のサービスやガイド

真田宝物館や他の文化遺産を訪れる観光客に湯茶等を提供し、観光ガイドを行っています。具体的には白井家表門における湯茶の接待、文武学校、真田邸、旧横田家住宅などのガイドが挙げられます。文化財ガイドの内容は「ボランティア養成講座」で培いますが、基本的に会員個人の勉強度合い等それぞれの裁量に任せられるほど、住民の文化財に対する熱意がみられます。

また、その付帯活動として、接待用の梅漬け、鯉幟、七夕飾り、菊作り、門松等の作成や、白井家表門の清掃等の維持管理も行っています。

●史跡の現地調査と報告会

自主的な調査の企画運営を実施し、報告会を開催しています。真田宝物館の収蔵資料をはじめとする松代地域の文化財を調査し、報告することで、文化を現在から次世代に伝えることに努めています。また、ガイドテキストの基礎資料の提供も同時に行い、ガイドとの連携も図っています。



お城ガイド研修
(松代文化財ボランティアの会提供)

●体験学習(ワークショップ)等の支援

真田邸土蔵を拠点として、ワークショップ等を行います。会員個々の職能を活用し、その成果は本格的なものになっています。

また、真田宝物館などの他の地元機関や団体等と連携した体験教室等も行うことで、体験として文化財を広めると同時に、地域の活性化にも貢献しています。

これらの活動に加え、定期的な会合も、活動グループごとのグループ会議と、理事による理事会が毎月行われています。

【活動上の課題と今後の展望】

外部からの資金を獲得するなど、今後の事業を拡大していくよう努めています。

また、活動範囲が広がりつつある中、運営基盤及び財政基盤をどのように整えていくかを、他の団体との連携も含め、可能性を探っていく必要があると考えられます。